



## 樹木いきいき講座 <その1> 藤原 満男



樹木医でもあり、剪定のプロとしてご活躍の藤原さん(3班:班長)に、樹木に関する事から剪定のコツなどを交えたエッセイ風コラムをお寄せいただき連載します。森林整備を行い樹々や自然と関わる私たちにとって、山を活かし植物を活かす知識は大切です。活動の時やご自分の庭での剪定に是非お役立て下さい。



今年の1月に行った恵下山例会での時、眺望をよくして高瀬堰が見えるように一部を皆伐しました。「あんなに伐って、大丈夫ですか？」と一緒に作業していた人に聞かれました。

「日本のように温暖で雨量があれば、いいんです。」針葉樹は無理ですが、薪や炭として使うクヌギ・コナラなどは20年余で更新していました。タケは秋・冬に樹齢3年生以上を伐れば持続可能な利活用ができます。

庭園樹、特に街路樹は剪定に強い樹が選ばれて

います。バラが軒より高くなっているのを見かけますが大寒のころに思いきって短く剪れば花を楽しめます。

立春を過ぎたころTVで柿や桃などの果樹の剪定風景を見ます。雑菌が少ないことが一因です。

反対に、繁茂し過ぎて困るタケは、枝葉が伸びて地下茎の栄養を出しきった7月に皆伐します。2年目はぐっと減って3・4年で枯れると言われて

《2020/5・6月合併号にて》

## 樹木いきいき講座 <その2> 藤原 満男

植物は主に葉(枝や幹、茎でも)で光合成をして、自らの生命を維持しています。

カンキツ類を始め常緑の果樹は葉の量を20パーセント以上減らさないように剪定します。桃は1果に30枚以上の葉を目安に摘<sup>てきらい</sup>蕾<sup>てきか</sup>・摘果をします。

庭木でも樹皮の薄いツバキなどを強剪定したり、透かし過ぎると、回復に数年かかります。

幹を1メートル残すと枯れ易いと言われています。

できるだけ地際で、切り口を平滑に、わずかに水切り勾配をつけます。切り口には木工ボンドを塗っておくと切り口を保護し腐りにくいようです。

幹を伐ると、それまであった枝葉を回復しようとして、たくさんの「ひこばえ」を出します。株立ち状になった樹は、最終的に最も離れた2本にするか1本に

《2020/8月号》

## 樹木いきいき講座 <その3> 藤原 満男

お盆前から雨が降らない状態が続き、下旬にはヤツデや平戸ツツジの葉が部分的に黒くなりました。これは、厳しい冬を前に落葉広葉樹が紅・黄葉し褐色になり葉を落とす現象と似ています。枝や幹や根を守る為です。

その昔棚田だった所で、上の段の人がサクランボを植えました。数年経って、高さ1メートル余の石垣の内側に根を延ばし、下の段にサクランボが生えていました。下の人は草を刈るのに不便なので、掘り起こし庭に植え替えました(株分け)。これは「取り木」という「挿し木」

「接ぎ木」となるが増殖法です。このようなことが自分の庭でしょっちゅう起こっていたらどうしますか? 例えばタラノキ・タケ、あまり広がりませんがナンテン・ユキヤナギ、かなり大きくなるサルスベリ・ロウバイ・ゲッケイジュなど根元から「ひこばえ」が出ます。伸ばし放題にすると、かなりうっとうしくなるので地際で剪る(間引く)とスッキリします。これは透(すか)し剪定の一種です。

《2020/9月号》